

きらめき通信 Vol.15

こんにちは、梅雨の時期がやってまいりました。

今回は5月16日、23日に医学部医学科・生命学科1年生129名を対象に行われた「医学入門 ジェンダー学講義」の様をお届けします。講師に、ジェンダー問題について高い見識を持つ「NPO 法人福岡ジェンダー研究所」の武藤桐子先生をお招きし、第1回目は「ドメスティック・バイオレンスについて」第2回目は「ワーク・ライフ・バランスについて」をお話していただきました。

■ジェンダー (gender) とは
「社会的・文化的につくられた
性のありよう」

【学生の感想 (抜粋)】

- ・DVは自分の身の周りではない話であるため、これから医師になった時、被害者に適切な対応をできるか不安に思った。暴力・DVは容認できない問題であり他人事ではない。またジェンダーによる差別問題に向き合わなければならないと思った。
- ・DVは身体的な暴力のみを指すと思っていたが、社会的なものから性的なものまで幅広くDVと定義されていることに驚いた。また、男性から女性への暴力だけでなく、女性から男性にもかなりの数の暴力がおきているということを知って更に驚いた。
- ・女性の医療従事者として、DVについてしっかりと理解して被害者の助けになりたいと思った。
- ・日本は世界の中で最も労働時間の長い国であると知りとても驚いた。しかし生産性はあまりよくないことも意外だった。労働効率を上げれば、自分の時間を持つことが出来るし、女性が就職しやすくなったり、男性も育児に時間をさくことができたりしてワークライフバランスの問題が解決できると思った。
- ・自分は家庭を持ったらず育ても頑張りたいので、育児支援の制度が病院でもっと充実したらいいです。
- ・女性の医療従事者の就業率低下の問題について、女性だけが家庭のことに時間をとられ仕事がしにくくなるのは問題だと思った。夫が理解を示し協力するなど、個人がもっといろいろ考えていくべきだと思った。
- ・「結婚しても奥さんに逃げられないよう家事を手伝おう。」というのが、今日の講義の自分にとっての教訓でした。

などなど、講義を受けた学生は大変刺激を受け、この講義を機に新たな思考で今後の人生設計ができたようです。

九州大学病院 きらめきプロジェクト キャリア支援センター

きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL/FAX: 092-642-5203

MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>

2013年5月(隔月発行予定)



☆仕事と育児を両立させながら、日々頑張っているきらめきプロジェクト所属のドクター(医師2名)を紹介します。

☆自己紹介

はじめまして。卒後11年目の皮膚科医師です。現在の研修制度に移行する前でしたので、卒業後すぐに皮膚科に入局し、研修医1年目で内科に4か月間だけローテーションし、そこで現在の夫(内科医師)と知り合いました。結婚まで5年かかり、その後妊娠まで4年かかり、昨年5月に待望のあかちゃん(♂)を授かりました。現在11ヶ月になり、部屋中ハイハイで大移動しています。

☆きらめきプロジェクトに応募するまで

妊娠中はつわりがひどく毎日朝から晩まで吐いていて、かたときもビニール袋が手放せない状態で、泣いていました。当時は病棟でスタッフとして勤務しており、手術や処置、後輩の指導、勉強会、会議もありましたが急に役立たずになってしまい、みなさんに迷惑をかけ続けた日々でした。そこで産後はきっともっと働けると思い、産後2か月で常勤の外来勤務に復職しました。ところが子供が6か月になった頃、ちょうど寒くなり、かぜ、中耳炎、気管支炎、RSなど急に病気をするようになり、入院もしました。両親は遠方であり、病気もしていて援助は頼めず、病児保育やベビーシッター、ファミリーサポートなどぎりぎりでもなんとか生活していました。そこで今年度は、半日勤務でなにかあったときに動けるように時間をつくりたいと思い、医局長に相談してきらめきを勧められました。

☆現在の生活

やはり大学病院なので、外来診療とはいえ比較的重症や難治な患者さんも多く責任が伴いますが、夜間や土日に呼び出されることがなくなり、生活リズムは安定しています。今年は専門医試験を受験することと自分の研究を勧めていくことを目標にしたいので、フリーな時間は勉強や研究にあてて、がんばっていこうと思っています。どうぞよろしく願い致します。

☆自己紹介

卒後11年目の内科系医師です。夫と子供(11か月)の3人家族です。大学院卒業後、病棟医員として勤務後に出産、一旦離職し、今回きらめきプロジェクトで職場復帰することができました。

☆仕事と子育て

同じ専門領域には子育て中の先輩医師が少なく、当初、どのような形で臨床復帰できるかイメージがわきませんでした。きらめきプロジェクトの活動を九大病院で勤務中に知っていたので、上司に相談し応募したところ、幸い採用して頂きました。週1回、大学で検査・診断に携わり勉強する傍ら、週数回市中病院での外来勤務をする形での復帰となりました。専門領域の勉強が続けてきて大変ありがたく思っています。

まだ新年度が始まったばかりですが、子供の生活リズムを作ることと、仕事を取り戻すのに奮闘する日々です。

平日に休みがあるため、病院や公的手続きといった所業を済ませることができ、とても助かります。しかし、目覚ましいスピードで成長していく子供にあわせた生活・食事の準備をしているうちに、休みの日はあっという間に過ぎてしまいます。勉強をする時間を確保するには、家事を効率化するなどの工夫が必要だと感じています。子供一人でこのように、二人以上の育児と仕事を両立されている先生方には本当に頭が下がります。

☆最後に

出産に当たり、産休ではなく一旦離職する形になる女性医師が多く、臨床復帰の際には悩む方が多いのではないかと思います。非常勤でキャリアを継続できるきらめきプロジェクトは大変魅力的で、もっと多くの方が利用できる制度になれば良いと思います。また、非常勤勤務を支えて下さるフルタイム勤務医師への感謝を忘れず、将来自分の子育てが一段落したら、次の子育て年代の医師を支える立場になりたいと考えています。

♪きらめきプロジェクトからのお知らせ♪

九州大学病院きらめきプロジェクト 第4回講演会

参加
無料

★ 日時:平成25年6月28日(金)18:00~19:30 ★
会場:九州大学病院 コラボ・ステーション2F視聴覚室

「ワークライフバランス～アメリカ編～」

福岡で活躍中の領事の話が
きけるチャンスです!

【プログラム】

18:00 開会のご挨拶

18:10 講演

『アメリカ人の働き方』

在福岡アメリカ領事館広報担当領事 兼
福岡アメリカン・センター館長

マイケル・チャドウィック氏

19:10 質疑応答

19:20 当副センター長より閉会のご挨拶

19:30 閉会

【チャドウィック氏略歴】

2003年に米国国務省に入省後、在シンガポール
および在モルドバ米国大使館とワシントンD.C.の国
務省本省に勤務。

国務省入省前から日本との縁が深く、福岡県内の
中学校で外国語指導助手として1年、東京で9年
間マーケット・リサーチ等の仕事に携わるなど経験
も多彩。7才の男の子の父親でもあり、家族との時
間を大切にしている。



マイケル・チャドウィック氏 (Michael Chadwick)

【お問い合わせ・託児申し込み】

九州大学病院きらめきプロジェクトキャリア支援センター

TEL/FAX : 092-642-5203

URL : <https://www.kyudai-kirameki.com>

Mail : kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

主催 : 九州大学病院

共催 : 福岡県医師会・総合メディカル株式会社・周産期ゆりかごネットプロジェクト

無料託児あります

※1週間前までに申し込み下さい